

Ganbare Nihongo Learning Japanese youtube Live Special

参加者: のりえ先生、じゅんこ先生、なつみ先生

テーマ: 雑談（日本、香港、韓国のクリスマスなど）

Podcast Episode 4

じゅんこ先生 : はい、メリークリスマスです。皆さん。

なつみ先生 : メリークリスマス。

のりえ先生 : ああ、メリークリスマス。

じゅんこ先生 : なんか飲んでるんですか?皆さん。

じゅんこ先生 : わたしは飲んでないよ。

なつみ先生 : お湯割り、違う、お茶です。

じゅんこ先生 : お茶ですか。

一同 : うんうん。

じゅんこ先生: はい。どうでしたか? クリスマスは?

なつみ先生: クリスマスですか?

じゅんこ先生: うん。

なつみ先生:クリスマス昨日ですね。

じゅんこ先生:クリスマス昨日ですね。

なつみ先生:昨日は朝から、あの初めてのパン作りに。

じゅんこ先生:すごいね。

なつみ先生:でもその、それを作ることになったきっかけが、その前の日のクリスマスイブに、あの、私夫と2人暮らしなんですけど、夫がいなかったんで、仕事でいなかったんでビールを1人で飲んでたんですけど、とか飲みきれなくてあの大きいやつ。

じゅんこ先生:うん、うん、うん。

なつみ先生:飲みきれなくて余ってたのでうん。そのビールを使ってパンを作ろうと思って、ビールパンを初めて作ってみました。

じゅんこ先生:ああ。

なつみ先生:うん。

じゅんこ先生:ええ。どうでした？

なつみ先生:でも、うーん、味はまあ、まあまあでしたね。

じゅんこ先生:うん、うん、うん。

なつみ先生:うん、ちょっと硬かったです。思ったより。

じゅんこ先生:ああ、そっかそっか。

なつみ先生:なので果たしてそれが成功だったのかわかんないんですけど。

じゅんこ先生:うん。

なつみ先生:ま、パンを作ったり、あとクッキーを作ったり。

じゅんこ先生:ああ、いいですね。

じゅんこ先生:私はそういうことはもう今全然してないので、前はパン焼いたり。

のりえ先生:うん。

じゅんこ先生:クッキー焼いたりはしてたんだけど、今はもうそんなスペースもないし。

なつみ先生 : うん。うん。

なつみ先生 : でもじゅんこ先生、ランチに行かれてました？

じゅんこ先生 : うん。あ、そうそうそうそう。クリスマスイブね。うん。

なつみ先生 : うん、あ、それはイブか。

じゅんこ先生 : うん。そう、イブにランチで、なんかインターナショナルな会で。

なつみ先生 : うんうん。

じゅんこ先生 : うん、結構楽しかった。

なつみ先生 : あ、そうですか。

なつみ先生 : 昨日は何されたんですか？

じゅんこ先生 : 昨日は何もなくて、だからイブの日にランチと夜の飲み会2つあってうん。

なつみ先生 : ああ。

じゅんこ先生：うん。

なつみ先生：忙しい。

じゅんこ先生：うん。

なつみ先生：うん。

じゅんこ先生：だから昨日は1日、えっと、「ライオンの隠れ家」っていうドラマをなんかビンジウォッチしてました。

なつみ先生：へえ、ビンジウォッチって何ですか？

じゅんこ先生：ビンジウォッチって、もうずっとその全部見る、あの、1日同じドラマをずっと見ることをビンジウォッチングっていうんです。

なつみ先生：ああ、そうなんですね。

なつみ先生：ビンチ。

のりえ先生：まとめて一気に見るやつですね。

じゅんこ先生：そう。でも別にウォッチングだけじゃなくて、例えばお酒ずっと飲むのはビンジドリンクングです。

なつみ先生：ビン、ビン。

じゅんこ先生：ビンジ。

じゅんこ先生：ええ、ビンチ、へえ。

なつみ先生：へええ。そうそうそう。

じゅんこ先生：うん。

なつみ先生：へえ。全部で何話ありましたか?ライオンの。

じゅんこ先生：まだ全部見てないんだけど、多分10忘れたわ。今7、7ぐらいまで見たんですよ。

なつみ先生：ああ、そうなんですね。じゃ多分もうあと少しで終わりそうですね。

じゅんこ先生：そうそうそうそう。うん。結構なんかあの、最初はその、なんて言うの?ちょっと障害のある男の子が出てきて、
自閉症スペクトラムかなんかいうので、その子の話かなって思ってたんだけど、そうじゃなくともっとなんか話は深い。

なつみ先生：ああ、へえ。

じゅんこ先生：うん、そう。

なつみ先生：であれ?柳楽優弥くん。

じゅんこ先生：そうそうそうそう

なつみ先生：うん、ちょっと見たことがあります。

じゅんこ先生：なかなかいいドラマで

なつみ先生：うん。彼、演技うまく、うまくないですか?

じゅんこ先生：うん、彼私結構彼好きなんで。

なつみ先生：うん、うん、うん。

じゅんこ先生：うん、そうそう。子供、彼もほら子役出身じゃないですか。

なつみ先生：そうですね。

じゅんこ先生：そうですね。

なつみ先生：うん、うん。

のりえ先生：で、彼 名前何でしたっけ？。

なつみ先生：やぎらゆうや。やぎらゆうや。

のりえ先生：柳田。柳田。柳田ゆうや。ちょっと変わった。

じゅんこ先生：柳田じゃなくてやぎらね、ら。

のりえ先生：あ、柳田。そう、私知ってるんですけど、名前が出てこなくて、やぎらゆうや君ですね。

なつみ先生：そうそうそう。うん。

なつみ先生：かっこいいし、演技もうまい。

のりえ先生：うん、かっこいいですね。演技すごいし。

なつみ先生：じゃあ、のりえ先生は何をしたんですか？

のりえ先生：クリスマスですか？えっと、昨日、昨日がクリスマスですね。で、おとついのクリスマスイブはあのホールチキンを焼こうっていう話をしてたんですけど、ホールチキン見つからず。

なつみ先生：うーん。うーん。

じゅんこ先生：そうだったんだ。

なつみ先生：売り切れ？

のりえ先生：いや、えっとね、もう売ってないのかもしれないですね。お店3つ周ったんですよ。

なつみ先生：ええ。忙しいのに。

のりえ先生：そうなんですよ。で、私あの住んでるところがちょっと田舎の方なので、年配の方が多いせいなのかなって思って、で、ちょっと町の方のスーパーにも行ったんですけど、それでもなくて、あのJAにも行ったんですけど、そこにもなくて。

じゅんこ先生：うん、うん、うん。

のりえ先生：諦めました。

じゅんこ先生：なんか日本ってホールチキンてないよね。

なつみ先生：確かに。そもそもがそうですよね。

のりえ先生：前は売ってたんですよ。

なつみ先生：ああ。そっか。そうなんだ。

のりえ先生：売れないのかな。

なつみ先生：1人ではさすがにやっぱり食べきれ、1人2人じゃちょっと多いかなって感じですね。

のりえ先生：うん、うん、うん。

じゅんこ先生：うーん。

のりえ先生：でもね、なんか売ってても売れなかったら後ろでさばいて小さくして売れるのでいいと思うんですけどね。ま、多分売れないんでしょうね。

なつみ先生：うん。

じゅんこ先生：確かに。

なつみ先生：それ手間を考えたら。うん。

じゅんこ先生：うん。ホールチキン焼くってなるとフィリングとかもいるし。あのこっちだったら、フィリングとかも売ってるけど、日本だったらフィリングないよね、きっと。

なつみ先生：ないです。たぶんないんじゃないですか。韓国にはないですね。

じゅんこ先生：うん、なんかフィリングも作らなくちゃいけないから結構めんどくさいと思う。

なつみ先生：中に入れるやつですよ。

のりえ先生：ああ、はい、はい。うん、うん。あ、でも私の見つけたレシピは、中に冷凍ピラフを入れるんですよ。

なつみ先生：ええ、すごい。

のりえ先生：そう。それをやったのが、あの初めで、すごい簡単で美味しかったんですよ。冷凍のまま詰めるだけで、焼くだけっていう感じだったんで。

じゅんこ先生：そうか。

なつみ先生：すごい。

のりえ先生：それをやりたかったんですけどね。

じゅんこ先生：うん、うん。

のりえ先生：なかったから、ご飯を作らなきゃいけなくなって

じゅんこ先生：そっか、そっか。多分それはもうかしわ屋さんとかに、もう前もって予約とかしとけばいいんじゃないかな。

のりえ先生：そうですね。今度からね。もうちょっと売ってないので

じゅんこ先生：うちは田舎でそんなものはないから多分本当に美味しいチキン食べたかったら
かしわ屋さんに行きますから。

なつみ先生：うーん。かしわ屋さんってデパートですか？

じゅんこ先生：かしわって、あのチキンのこと、大阪っていうか関西弁でかしわって言うんですよ。

なつみ先生：あ、そうなんですか？え？初めて聞きました。

のりえ先生：あ、大阪弁なんですか？いや、私知ってるんですよ。かしわは。

なつみ先生：へえ。

じゅんこ先生：うん。そう。だから多分近畿エリアはかしわはみんな通じると思うけど。

なつみ先生：鶏肉ってことですか？じゃあ。

じゅんこ先生：鶏肉のことですね。鶏肉専門の店があって、それがかしわ屋さんなんですね。

なつみ先生：へえ、ああ、なるほどね。皆さん、ザンギって知ってますか？

じゅんこ先生：ザンギ？

なつみ先生：ザンギ。

じゅんこ先生：ザンギってあれでしょ

、

なつみ先生：うん。唐揚げ。唐揚げのこと

じゅんこ先生：うん。

なつみ先生：対抗しようとして。

じゅんこ先生：うん。

なつみ先生：北海道です。

じゅんこ先生：ザンギは、ザンギどこの言葉なんですか？

なつみ先生：あれ、北海道ですね。

じゅんこ先生：あれ、北海道なんだ。

なつみ先生：ふうん。

のりえ先生：うーん。ちょっとザンギってのが、こっちの方のザンギをちょっと思い浮かべて

じゅんこ先生：そう。ザンギなんかお菓子かなんかで見たことあって、その唐揚げ味の何かがザンギって書いてあったから、それが唐揚げだなんて思ったけど

なつみ先生：うん。うん。

じゅんこ先生：でも言わないと思う。うん。

なつみ先生：言わないですよ。あ、青森でも言わないんですけど、北海道だけで言われているそうですね。

のりえ先生：なつみ先生青森なので、青森弁を流暢に話せるってことですよね。

なつみ先生：うん。そうですね。一応青森も津軽弁と南部弁というのがあって

じゅんこ先生： ああ違うんだ

なつみ先生：人の性格とかも違いますし。使う方言もちょうと違うんですけど。私は津軽弁でやらせていただいています。のりえ先生も関西？三重って関西圏？

のりえ先生： ええ、今は三重に住んでいますけど、出身は兵庫県で

じゅんこ先生： ああそうなんだ。

のりえ先生： そうなんです。大阪にも長いこと住んでたんですよ。だいが今もう方言が出てますけども

なつみ先生： えっ、出てるんですかそれって？

のりえ先生： ちょっと出ますよね。

じゅんこ先生： ちょっと関西弁出ますよね。時々ね。

のりえ先生： じゅんこ先生結構関西弁出てますよね。

じゅんこ先生： 私めっちゃ出るよ。

なつみ先生： えっ、じゅんこ先生は出身はどちらなんですか？

じゅんこ先生： 奈良です。

なつみ先生、のりえ先生： 奈良なんだ 奈良ですか

じゅんこ先生： そうそうそう

なつみ先生： えっ、関西同士で気づくんですか？あ、ちょっと奈良。。。

じゅんこ先生： ちょっとわかんないと思う。奈良の人はあんまり あああ これが奈良弁ですっていうのがたぶんないと思うんだよね。

なつみ先生： っていうことは何、大阪よりってことですか。

じゅんこ先生： みんな大阪。。。京都弁と奈良弁がまざることってたぶんないと思うけど、みんな大阪弁だと思うよ。

なつみ先生：ああそうなんですね。

じゅんこ先生：でも、田舎の方の人は、奈良弁なのかわからないけど、田舎の言葉を話す人はいるけど、私の家はお父さんもおじいちゃんもみんな大阪で働いていたので、あまり田舎の言葉を家で話されて無くて、

なつみ先生：関西あの、岡山の方になるとちょっと違うじゃないですか。

じゅんこ先生：岡山は関西じゃないからね。

なつみ先生：えっ、どこ四国？

のりえ先生：中国ですよ。

なつみ先生：ああ、だからか　なんかよくわかんないから

じゅんこ先生：あっ、でも兵庫県は神戸とかあの辺なんですか？

のりえ先生：あっ、私はちょっと北の方で、北っていうか真ん中らへんで、京都の境ぐらいなんですよ。

じゅんこ先生：亀山とか

のりえ先生：すごい関西弁出ましたけど、えっと丹波ってとこなんですかね。

なつみ先生：丹波って有名なところですよ。

じゅんこ先生：栗とか

のりえ先生：そう有名なんですよ。

なつみ先生：食器。。。食器有名じゃなかったでしたっけ？たんば。。。。

じゅんこ先生：有名でしたっけ？たぶん勘違いしているよね。何かと勘違いしているよね。
丹波は栗で有名です。

のりえ先生：そうですね。栗と豆ですね。

じゅんこ先生：もうちょっと上がっていったら、香住とかね。

のりえ先生：そうですね。スキーができますね。

なつみ先生：あっ、本当だ黒豆 なんかと勘違いしていました。食器

のりえ先生：但馬焼きとかありますかね。

なつみ先生：あああ
関西の人って多いですよ。多くないですか？

のりえ先生：そうですか？

なつみ先生：出会う人が関西の人が多い気がします。

じゅんこ先生：たぶん韓国って近いからね、大阪から

なつみ先生：韓国で出会う日本人というよりも、今まで私が海外生活をしていて、どこ出身って言った時に大阪とか兵庫とか、あと静岡も多いんですよ。

じゅんこ先生：ああそうなんだ

なつみ先生：どうですかみなさん。青森出身とか東北出身の人に会ったことがありますか？

じゅんこ先生：ないです。

なつみ先生：絶対そう言われるんですよ。

のりえ先生：あのね。関西では会わないけど、東京に住んでたときはいましたね。
関西には来ないんですよ。きっと 東京で止まっちゃう。

なつみ先生：大阪、青森は直行便があるんですけどね。

のりえ先生：そうなんですか？

なつみ先生：そうなんですよ。で、青森で大阪出身の人はたくさんいました。

じゅんこ先生：あっそう。直行便って飛行機が飛んでるってことですよ。

なつみ先生：毎日あるんですよ。

のりえ先生：そうなんですか。

じゅんこ先生：青森ってりんごですよ。

なつみ先生：そうそう、青森って言うとりんごとねぶた

のりえ先生：いいですよ。青森のりんごおいしいですよ。

なつみ先生：ほんとに、青森のりんご食べたら、他のりんご食べれなくなりますよ。

のりえ先生：そうですか。いいですね。方言で話しますか？

なつみ先生：方言で話す？方言で話す絶対関西につられるんで。

のりえ先生：ははは、つられます？

なつみ先生：ひっぱられます。なんか

のりえ先生：そうなんですか？青森の人は青森弁をとおさないですか？

なつみ先生：えっ？普通に話しますね。普通に話すとかいうなまりが出るんですよ。

じゅんこ先生：こういう？

なつみ先生：こういうなまりが出るんですよ。

じゅんこ先生：こういうみたいな？あのね実は私、仙台の友達がいるんですよ。彼がいつも私

に言う事は、大阪の人、関西の人たちはずるって、なぜなら方言をそのまま、誰と話す時でも大阪弁で話す。

なつみ先生：そうそうそうそう　なんか認知されている気ている。

じゅんこ先生：それで誰にでも大阪弁で話して、わかる、みんなわかるって思っているから使うけど、私達仙台の人はもし地元の言葉で話したら誰もわかんない。だから頑張って標準語を話しているのに、関西人たちはずるい。

なつみ先生：そうそうそう　東北全員そう思っていますよ。

のりえ先生：そうですか。通じないのかな？

なつみ先生：いや、通じることは通じるんですけど、なんか「あっ」なんかちょっと「あ」みたい。ちょっと笑われるっっていうか。なんかありますよね。きっと

のりえ先生：なんかちょっと私、九州の人結構関西いるんですけど、その九州の人と青森の方言なんか似ているような気がするんですけど。

じゅんこ先生：あああ　そうなんだ

なつみ先生：九州より沖縄の方言に似ているって言われたことがあります。～～さあって言うんですけど、さあの部分が似ているんですかね。たぶん

のりえ先生：いやあでも。かわいい　かわいいやんね。

じゅんこ先生：かわいいかわいい　方言ってかわいいよね。

なつみ先生：ええっ？そうですか　いいんですか、これ学習者向けの。。。この人から習いたくないって思われちゃうかも。

のりえ先生：いやでもなんかね、あのね方言興味ある人いますよね。

じゅんこ先生：ねっ、いますよね。

のりえ先生：関西弁はやっぱなんか習いたって言う人いますけども。青森も結構今聞いたら、あっ、このしゃべり方がかわいいわって言う人いそうじゃないですか。

なつみ先生： いや、まあ 絶対マイノリティーだと思うんで たぶん いたらかなり強いきずなが生まれそうなんですけど。そこに。。。どうなんだろう？青森はアメリカ軍基地とかもあるんで。三沢にあるんで

のりえ先生： かわいい

なつみ先生： ここにこんちゃんがいたら、こんちゃんも函館なんで 函館だと同じ 方言同じなんですよ。たぶん イントネーションとか

じゅんこ先生： そっか おもしろいね

なつみ先生： で、アメリカーノって言いますよ。

のりえ先生： アメリカーノ、カプチーノみたいな？

なつみ先生： 関西弁でアメリカーノって何ですか？

じゅんこ先生： アメリカ？アメリカーノ？

のりえ先生： アメリカーノって何ですか？

じゅんこ先生： アメリカの アメリカのってこと？

なつみ先生： コーヒーのブラックコーヒーのことです。

じゅんこ先生： アメリカンのこと 私達大阪ではアメリカンって言う。

なつみ先生： えっ、アメリカン？

じゅんこ先生： うん アメリカン コーヒーアメリカンでって

なつみ先生： それ、標準語なんですか？

じゅんこ先生： アメリカンだよな。

のりえ先生： アメリカンしか

じゅんこ先生： コーヒー、ブラックコーヒー、もちろんブラックコーヒーはブラックコーヒーだけど、アメリカン、アメリカンってオーダーする人もいるよ。

なつみ先生： えっ、それも違いますね。アメリカカーノですもん。

じゅんこ先生： アメリカカーノじゃない

のりえ先生： 青森でアメリカンをオーダーするときは、アメリカカーノって言わなきゃいけない。

なつみ先生： 笑ってますよね。

のりえ先生： うちら～～うちらからすると、こうやって笑ってくれた方が嬉しくないですか？

なつみ先生： 確かにそうそうそう おもしろいです。津軽弁の人絶対スタバ、スターバックスのオーダーを例に出すんですよ。津軽弁の代表として

じゅんこ先生： のりえ先生は何、もう伊勢弁とか話せるの？

のりえ先生： いやねちょっと、伊勢弁とかはわからへんのですけど、三重県の三重弁っていうのが少し違ってて、語尾に「に」とかつくんですよ。せやに、せやにって言いますね。

じゅんこ先生： ああ、せやにか ああ、せやてとか せやて～～ ほんで、あれ怖いとか言わへん？

みんな：あれこわい？

じゅんこ先生： あれこわいって、なにかちょっと話を聞いてびっくりした時とか、「あれこわい～～～」って

のりえ先生： アレ怖いって、それどっちやろ、私のとこちょっといろんなとこ混じっているから、これはどこの方言なんやろっていうのが結構あるんですよ。

じゅんこ先生： あれ怖いを使うのは三重の人だよ

のりえ先生：ははは、そうなん？

三重の人はあれこわいとかあと、つらいとかしんどい時のことを「ずつない」って言うんですよ。

なつみ先生：ずつない？

じゅんこ先生：それ知らんわ

のりえ先生：ずつないわ。ちょっと食べすぎたからずつないわっていうんですよ。

じゅんこ先生：それは初めて聞いたわ

のりえ先生：たまにそういう言葉が。。。机をつるって言います？

じゅんこ先生：机をつるって言う言う

のりえ先生：つるは関西で通じるんやね。机つる。わかります？

なつみ先生：机をつる？ わかんないです。

のりえ先生：机をつるっていうんですよ。こう、持ち上げる

なつみ先生：持ち上げること？へえええええっ つるって、Fishingのつりじゃないんですね。足をつるとか へえつる〜〜おもしろい 方言の勉強だ。今日は

のりえ先生： ねえ 本当これ、おもしろいですよね。あと、よくあるのがゴミをほるとかですね。

じゅんこ先生： ゴミをほるは、私言うよ〜〜

のりえ先生： 関西はゴミほる、言うんですよ。

なつみ先生： ほる？

のりえ先生： ごみほっというって言うんですよ。

なつみ先生： 投げる？

じゅんこ先生： ごみを捨てることです。

なつみ先生： 青森はごみを投げるって言うんですよ。

じゅんこ先生： えっ、ごみを投げるっていうの？

なつみ先生：そう 投げてきて～って

じゅんこ先生：あっ、そうなんだ。

なつみ先生：捨ててきて～

のりえ先生：えっ、投げなくても投げるって言うんですか？

なつみ先生：そうそうそうそう 優しく置きますよ。

じゅんこ先生：でも投げるという意味ではるは使うよね。

のりえ先生：あっ、そうですね。 うん ほるって言うけどたまにわからへん人からすると、ほっというって言うと、ほうっておく、ほうっておくという意味にとられちゃうこともありますよね。

なつみ先生：で、ちょっと遠くにいたときに、それ投げてって言う時にほってって言うんですか？

じゅんこ先生：うん、ちょっとこっちほってって言いますね。

なつみ先生：へえ、おもしろ～い ほる。

Podcast Episode 5

なつみ先生：じゅんこさん、ママ。

じゅんこ先生：あ、ママ。

なつみ先生：今日、じゅんこさん、じゅんこ先生のスナックですもんね。

じゅんこ先生：そうそう、うん、何も飲んでないけど。でも本当に、あの、えっと、ネイティブキャンプ？

なつみ先生：うん。

じゅんこ先生：ネイティブキャンプで英語を教えるようになってから、あの、入ってくる人たちが結構おじさんが多いんですね。

なつみ先生：ああ、はいはいはい。ああ、そっか。先生英語も教えられてますもんね。

じゅんこ先生：うんうん、うん、そう。で、なんか本当に、もう、みんな、身の上話みたいな感じで、うん。それでなんか、英語でね、スナックだよなと思っていつも。ああ。

のりえ先生：ああ。いいですね。これちょっと、ポッドキャストをしても大丈夫ですか？

じゅんこ先生：うん、多分大丈夫じゃない？

なつみ先生：そっか、そっか。英語を教えられる日本語の先生。で、たまにいますもんね。

じゅんこ先生：うん。ああ。

のりえ先生：あ、でもじゅんこ先生は、もう英語かなり話せますよね？

じゅんこ先生：うん。英語で、あの、最近、日本人の友達もあんまりいないんですよね。

なつみ先生：うんうん。そう。うん。

なつみ先生：香港も長いじゃないですか。カントニーズ？

じゅんこ先生：カントニーズはダメ。全然ダメです。

なつみ先生：あ、そうなんですね。

じゅんこ先生：うん。本当にちょっとだけ。そう、皆さんがあの、会う人たちみんな英語ができるので、うん。例えば私が ゆっくりした広東語でね、なんか話そうとしたらね、みんなね、もう待てないんだよね。

なつみ先生：ああ、そうそうそう、そっかそっか。

じゅんこ先生：英語わかるんだから英語話さないよって言われるんだよ。

なつみ先生：うん、うん、うん、うん。

じゅんこ先生：で、それで、もう、うん、じゃあそうするみたいな感じで広東語全然喋らなくなった。

なつみ先生：うん、そうですね。英語で生きていけたらそうですね。

じゅんこ先生：うん、そうそう。

なつみ先生：香港の人はみんな英語話しますか？

じゅんこ先生：まあ、私の周りにはね、話しますね。うん。

なつみ先生：うーん。

なつみ先生：一応あれですよね、広東語が公用語ですか？

じゅんこ先生：そう、広東語が公用語で、英語も公用語です。どっちも。

なつみ先生：ああ、そうなんだ。

じゅんこ先生：だから、えっと、なんて言うの？あの、役所の書類とかは、表は広東語で、広東語ってか中国語で、裏は英語みたいな。

なつみ先生：あ、え、すごい。うん。へえ。

じゅんこ先生：銀行もそうですよ。

なつみ先生：うーん。

じゅんこ先生：だから、サービスとか、あの、インターネット、あ、Eメールとかでサービスお知らせとか受ける時に英語か中国語か選ぶ。

なつみ先生：うーん。

のりえ先生：へえ。

なつみ先生：じゃ、移住とかしやすそうですね。

じゅんこ先生：そうですね。ここは、あの、日本人も多いし、うんうん。あの、何でもあるんですよ、ドンキとか。イオンとかそごうとか。

なつみ先生：え、すごい。そごうもあるんですね。ええ。

じゅんこ先生：うん。あ、スシローとか、すき家とか、吉野家とか、うんうん。全部あるから全然困らない。最近はマツキヨもいっぱいできたし。

なつみ先生：へえ、すごい。

のりえ先生：おお、すごい。

なつみ先生：うん、そうなんだ。行ったことないからわかんないです。香港。

じゅんこ先生：韓国はどう？

なつみ先生：ええ、韓国、住みやすさですか？

じゅんこ先生：うん。

なつみ先生：ま、住みにくくはないですね。

じゅんこ先生：うん。でも主人は韓国人？

なつみ先生：そう、韓国人です。ああ、そっかそっか。

じゅんこ先生：じゃあ韓国語はペラペラなんだね。

なつみ先生：ま、ペラペラではないですけど、最近はどうやく、あの、一人で病院に行ったり、郵便局に行ったり、多分勇気の問題なんですけど、ほとんど。

じゅんこ先生：あ、はいはいはい。

なつみ先生：行けるようになりましたね、一応。

のりえ先生：韓国は英語が通じないですか？

なつみ先生：え、多分ソウルとかは 意外になんか若者だったら結構英語通じるらしいんですよ。ね。

じゅんこ先生：うんうん。。

なつみ先生：でも、私が住んでるところはソウルからちょっと1時間半ぐらい離れてるんですけど、ここらへんだったらなんかちょっと、あ、エクスキューズミーとか言うみんな、あ、ノーイングリッシュみたいな感じで多分立ち去っていく人が多い。

のりえ先生：ああ。日本人と一緒に

なつみ先生：そう、多分、うん。話そうと思えば話せるんだろうけど。

じゅんこ先生：でも韓国人の方が日本人と比べたら外向きですよ。

なつみ先生：確かに、あの、パスポート保有率で言うと高いと思います。

じゅんこ先生：そうでしょう？それに、あの、移住したい人とかは日本人と比べたら、断然韓国人の方が多いと思うし。

なつみ先生：多いですね、確かに。結構海外とかに行くと韓国コミュニティも多いですからね、なんか中国。

なつみ先生：中国コミュニティはもちろん大きいけど うん。多いですよ。

じゅんこ先生：うん。韓国人多いと思う。うん。うん。日本人ってやっぱ出ないんですよ。

のりえ先生：そうですね。ちょっとね、日本はね、多分すごい快適だからだと思ってるんですよ。日本に住んでて何も不自由しないし。でも安全やし、食べ物も美味しいし。生きていくのに特に不自由はないですよ。

じゅんこ先生：そう、そう、そうなのよね。うん。

なつみ先生：確かに。

じゅんこ先生：そう。

なつみ先生：なんか、なんなら あの、私も青森で、まあ、育って、私も時代も時代かもしれないですけど、留学とか、地域性もありますけど、田舎で育ったんで、留学生とか全くいなかったんで、高校生までALTの先生 あの、なんか、ね、たまに短期で英語を教えに来てくれる先生以外外国人に会ったことなかったんですよ。

じゅんこ先生：へえ、そうなんだ。

なつみ先生：ロシアが近かったこともあって、ロシアからの留学生は交換留学みたいな1日だけとか、ありましたけど。その点やっぱ関西ってさ、あの、多いじゃないですか？留学生とか海外も

のりえ先生：いや、でも大阪だけかな多いのって。

なつみ先生：そうなんですね。

のりえ先生：うん。兵庫県でも私みたいな田舎の方はほとんど外国人いないし。

なつみ先生：あ、そうなんですね。

のりえ先生：あの友達のところ、教会があったので、そこで、あの、外国人と触れ合うことはあったんですけども、それがなかったら、もう全然外国人には会わないですね。

なつみ先生：そうなんだ。

じゅんこ先生：うん。私もだから、高校生ぐらいの時は、本当に外国人探して、英語で話しかけるみたいなのを無理やりしないと、練習できなかったから。でも、途中で担任の先生が家の近くに、あの、アメリカ人が英語教えてるところがあるから、そこにいきなさいって言われて、で、バス乗ってそこに1週間に1回行ってた。

なつみ先生：ええ、すごい。高校生の時から？やっぱり今は本当に青森でさえも結構外国人見ますね。この前帰った時も結構いて、やっぱり全体的日本全体で増えてるんだなって思った。

じゅんこ先生：そうそうそう。奈良でもすごいっぱいいるよ。

なつみ先生：あ、そうですか？うん。増えてますよね。

のりえ先生：三重県はね、元々ちょっと外国人が多めで、あの、大体ブラジルから来てる人が多いんですよ。

じゅんこ先生：ブラジルの人多いよね。三重県は。

のりえ先生：多いんですよ。私あの前の子供の学校とかだったら、結構ブラジル人の子が多くて、あの運動会とかうんうん。校内放送があるじゃないですか。そういうのは2か国語でやってましたね。日本語とポルトガル語。

じゅんこ先生：へえ。そっか、そっか。うん。なんか私も昔ブラジル人の子に日本語教えてた時があって、で、彼の兄弟がやっぱし日本に行ってた。それが三重県だったんだよね。

なつみ先生：なんで三重県？車？関係？

のりえ先生：あ、工場がね、すごい多いですね。三重県のあの、四日市もあるし、あの、名古屋からこの、海沿いにかけてのその工場の工場地帯があるんで、その関係で外国人の労働者が入ってきてるんじゃないでしょうか？

なつみ先生：うーん、そうなんですね。うーん。

のりえ先生：そうですね。まあ、色々ね、言葉の問題とかもいますけどね。やっぱり どうしてもね、子供はすぐに話せるようになるんですけども、話せるようになるからって言って学校の勉強ができるってわけじゃないので、このあたりで結構問題が起きてきたりしますね。

なつみ先生：大変ですよ。勉強についていけないってね、そうですね。

のりえ先生：そうですね。なんか話せるからね、ちょっと見逃しちゃうんですよ。その学校の勉強とちょっと 違いますからね。

じゅんこ先生：あとは親がね、手伝えないからね、宿題とかね。

なつみ先生：確かに。

のりえ先生：そうなんですよ。両親が あのブラジル人だったりすると、もう日本語が全然わからないから あの、役所とか行ってもヘルプが必要だし、ま、時々その子供を 通訳に して、そういうことしながら生活されてるみたいですね。

なつみ先生：うん。なるほど。へえ。

のりえ先生：外国に住むっていうのね、すごい大変ですよ。あの、ね、なつみ先生もじゅんこ先生も住まわれてますけど。

なつみ先生：いや、私はもうね、夫が韓国人なので もう、正直、おんぶにだっこって言うかま、今でさえ、今で、今ではもう自分でね、色々行けますけど、最初の頃はもう本当に全部についてきてもらって。してもらってましたね。

なつみ先生：じゅんこさんのところは？

じゅんこ先生：英語が大丈夫だから。

なつみ先生：あ、そっかそっか。そう、そう、いや。そうですね。

のりえ先生：うん。やっぱり言葉ですね。

なつみ先生：いや、言葉、言葉大事。

なつみ先生：なんか、あの、最近、あの韓国 なんか一時前に、なんか日本人の女性が主人公で韓国人の男性がその サブ主人公みたいな感じのドラマ、みました？ アイラブユーって言う。見てないですか？ あの、二階堂ふみちゃんが 女性の主人公で、男の人が韓国の俳優さんの、あの、日本のドラマが結構なんか話題になったんですよ。その逆バージョン、男の人が日本人で女の人が韓国人、バージョンのドラマが韓国側で制作されたんですよ。

じゅんこ先生：ああ、そうなんだ。

なつみ先生：そのドラマがめちゃくちゃ良くて、日本で放送されてるかわかんないんですけど。そう、なんか、自分、日本語、上手な韓国人の子が日本で生活する。それで出会うんですけど。その、なんか、日本で生活してる時に、いくらやっぱり日本語が流暢でも、自分がこう、怒ってる時とか、悲しい時とか、自分の気持ちを分かって欲しい時って、やっぱり母国語が出ちゃうじゃないですか。その男性は韓国語が全然できないの知っていても、感情にこう、感情が溢れて韓国語でこう、怒鳴るんですよ。そのシーンがすごい私胸に刺さって、うん。私の夫、（韓国）日本語全然できないんですけどたまに私、日本語でこう、自分の感情をぶつけてしまうことがあるので。いやあ、やっぱりね、ちょっと、もっと、やっぱり勉強してもらわないと思って。夫に。

じゅんこ先生：ああ、確かにそうだね。

なつみ先生：うん。そう、そう、そう。なんかそういう時言葉って大切だなと思います。

のりえ先生：そうですね。なんか、あの、浅いコミュニケーションはできるけど、深いところのこの自分の細かい気持ちを伝えようと思うと。やっぱり そんな簡単にはいかないですね。

じゅんこ先生：あとね、国民性の違いとかさ、あの、日本人だったら絶対言わなくてもわかってもらえることってあるじゃないですか。日本人だからわかる感覚みたいな。それやっぱり、あの、外国人には絶対通用しないからそこを言葉にしていけないと伝わんない。

なつみ先生：いや、そうですね。

じゅんこ先生：うん。そう。それがね、やっぱり面倒くさいなって、そう言ったからって分かってもらえるかどうかもわからんしね。

なつみ先生：確かに、確かに。それもありますね。

じゅんこ先生：そう。それがすごくなんか感じるかな。

なつみ先生：うん、うん、うん、うーん。うん。

のりえ先生：じゅんこ先生の旦那さんは日本人ですか？

じゅんこ先生：日本人。でも、あの、友達とかね、バンドのメンバーとかね、ちょっとしたことで、言葉に出さないと、なんか伝わってないなみたいなことはある。

なつみ先生：うん、うん、うん。

じゅんこ先生：1人日本人の私だけがいつも気を揉んでてみたいな。

のりえ先生：分かりますね。なんか日本人ってなんかすごい周りのこと気になるじゃないですか。すごい細かいことも気になるんですよ。なんでこの人わからへんのやろって思っちゃうんですよ。

じゅんこ先生：うん。そんなことがね、もういっぱいあるよ。うん。

なつみ先生：うん。うーん。考えちゃいますよね。え、なんでこの人機嫌悪いんだろうとか。

のりえ先生：自分がなんかやったかなとか思っちゃいますよね。

なつみ先生：思っちゃいますね。うん。分かります。

じゅんこ先生：うん。だから言葉は大切だと思う。うん。

なつみ先生：日本人同士でも大変ですよ。

のりえ先生：そうなんですよ。その日本人同士だと逆に言わないじゃないですか。言わず、言わないコミュニケーションだから、あの、言わないままで、いつの間にかなんか違うことを考えてて。あれってそうじゃなかったのっていうことがよくありますよね。

なつみ先生：あります、あります。え、結構、あとは語尾。語尾に気をつけないと、語尾とか言い方に気をつけないとなんかあれ怒ってるように思われたり、あれ言い方きつかったかなとか。その辺ありますよね。

のりえ先生：そうですよね。なんか語尾、語尾だけじゃなくてもイントネーションだけでも、その普通に私は言ったつもりなのに、なに怒ってるのって言われたりとか。そういうのなんか敏感なんではなかね。日本人。

なつみ先生：ねえ。なんではなかね。

じゅんこ先生：でも、なんか言わなくても、別に夫婦じゃなくても、友達とか別に仕事一緒にしてる人とかでも、なんかあんまりはっきり言わなくても大体通じていることって多くない？日本人って。それに、なんか私たちは慣れてる？

なつみ先生：うん、うん、うん。

じゅんこ先生：そう。だから、あの、なんて言うの？英語でハイコンテキストとローコンテキストって言うんだけど、あの、日本語はなんか言わなくても、なんか分かり合える。そう。でもやっぱし、英語人とかは言わないと、すみずみ言わないと通じないみたいな。

なつみ先生：そう。面白いですよ。なんか、すごい曖昧な表現までたくさんあるのに、言わなくても分かるみたいな。

じゅんこ先生：何だろうね。なんか分かんないけど、それ特別だと思う、それがね。だから、なんで、これ、これが、やっぱ、言ったらなんか、日本人だったら言ったら、あ、これ言われたくないよねとか、言わなくても分かってるよねとか言うのがあるから言わなくなってしまうけど、なんかその感覚で、ああ、これ言っといた方が良いよねって言うことは、絶対言っとかなあかんのよ。英語人は。

でも、心情的には、こんな言ったら嫌われるかなとか、なんか面倒くさがられるかなとか。日本、日本人だ絶対そう、そう思われるから。だけど、言わないとあかんのよ。

なつみ先生：付き合い方がね、違ったりすると、やっぱり最初は苦労しますよね。最初だけじゃないか。

のりえ先生：逆に、じゃあ、あの、外国人の人が日本に来て、その細かく言いすぎちゃった場合とかってやっぱりトラブルになるんでしょうかね？

じゅんこ先生：なんないよ。だって日本人は優しいから 外国人って思ったら、あ、そっか、困ってるんだろうなとか、なんか、ふんふんどう、何々って聞いてあげる気持ちは多分日本人にはあると思う。確かに。うん。なんかそんなトラブルはないと思う。だけど反対の場合は、あの人らは全然気にしてないから。

なつみ先生：あ、優しいですよ。なんか、甘やかすっていうか。悪く言うとちょっと甘やかす。日本人は。

のりえ先生：そうですね。あれでも日本人ってなんか女の人はずいきめ細やかにするイメージがありますけど、男の人もきめ細やかなんでしょうか？どう思います？

じゅんこ先生：他の国の人たちに比べたら決め細やかだと思うよ、日本の男はね。男もそうでしょうかね。

のりえ先生：そうなんですかね。なんか家庭で見るとあんまりそういうふうには思わないですけどね。

なつみ先生：確かに。私の家族を思い浮かべても全然きめ細やかじゃない。

のりえ先生：仕事ではやっぱりきめ細やかなのかな？

じゅんこ先生：多分ね。

のりえ先生：なんか、あんまりね、日本の男の人って、ちょっと あの、甘えてるといふか女の人に甘えてるイメージがありますよね。

じゅんこ先生：あるね、それはあるかもね。

のりえ先生：期待しているというか、こんなことやってもらっ、ね、やってもらうのが当たり前だろうって言うような。

なつみ先生：それ、世代じゃないですか？どうですか？結構世代 私、あの、弟世代？私30代ですけど、弟今29なんですけど。もう、結構、もう役割も、もう イーブンですね。こう平等。むしろ夫の方、あ、夫じゃない、私の弟の方が もう、かなり手伝って。手伝ってるって言い方あれですけど、一緒に家事とかもしたり、子供もいるので。

じゅんこ先生：育て方だね。お母さんの。

なつみ先生：いやー、どうな、まあ、そうかもしれない。女2人で第1人なんで、女が強いからかもしれないですけど。

じゅんこ先生：それも、それありやね。

なつみ先生：それはあるかもしれないですね。確かに。うん。

のりえ先生：ああ、でも世代、でも世代は大きいかもしれないですね。

じゅんこ先生：そうね。だんだんこう、女性の権利みたいなのがあの、だんだん認められるようになったじゃないですか、最近ね。私たち世代はやっぱ男は何もしないみたいなのが絶対多いと思う。

なつみ先生：うん、うん、そうなんですね。確かに。

のりえ先生：そうですね。なんか、あの、昔のその、ね、ドラえもんとかのアニメとかも見てても、大体お父さんは座ってお茶を飲みながら新聞読んでいる。お母さんは洗濯してるんですよ。

じゅんこ先生：それは日本の昭和、昭和だよな。

のりえ先生：そうですね。今はちょっと違うっていうことでちょっと安心しましたね。

じゅんこ先生：うん、うん。今は全然違うと思う。うん。

なつみ先生：そうですね。どうなんだろう、本当に違うのかな、私。どうですか？のりえさん、日本に住んでて。

のりえ先生：日本に住んでてね。いや、どうなんでしょうね。私も最近、もうあのね、ママ友としか話さないじゃないですか。子供のお母さんと話すっていう感じなので。でも最近は、あんまり外で旦那の愚痴を言う人って少なくなってきたような気はしますね。

なつみ先生：どんな風潮なんですか？

のりえ先生：ああ、なんか普通に子供の話しかしないですね。あの、もう、もう少し上の世代からすると、あの、旦那の愚痴をあの、お酒の肴にするみたいな。そんな感じですけどもね。

なつみ先生：でもなんか、授業参観とか、そういうのってもう男の人も結構多いんですかね？

のりえ先生：あ、結構ね、いますね。結構って言うこともないけど1割ぐらいかもしれないですけど。

じゅんこ先生：ま、授業参観そのものがやっぱり母親が来るものっていう、あの時間帯だってさ、お昼間にやるわけでしょ？

なつみ先生：確かに。ね、平日のね。

じゅんこ先生：だから会社休んでお父さんが、あの、授業参加に行くって、普通はないよね。まあ、私は娘がインターだったんで、授業参観っていうものを全然、あの、経験してないんですよ。で、あの、懇談会とかは、あの、絶対奥さんと旦那さん一緒に行くので、夜なんです。大体6時半とか7時ぐらいから始まって9時ぐらいまで。

なつみ先生：いや。確かに、今思えば映画とか見ても、アメリカとかのなんかその学校のやつってよく夜に、夕方に、あの、お父さんとお母さん2人できてやってますもんね。

じゅんこ先生：でしょ？でしょ？だから、みんなそんな感じだから、日本もそれをしてたら、もしかしたら、もっとお父さんが、ね、育児に参加できるんじゃないかなとは思う。オープンスクールとかも休みにやるか、もしくはその夜に行われたりするから。

なつみ先生：うん。別に授業見なくてもいいですもんね。

じゅんこ先生：うん。そうそうそう。それ授業参観は行ったなかったから、うん。

のりえ先生：学校によっては大体でも土曜日に授業参観の日を設けたりしていますね。 そうなんです。

じゅんこ先生：え、土曜日って学校あるの？

のりえ先生：土曜日にあの、オープンして、で月曜日を休みにするんですよ。それはそれでちょっと大変なんです、お母さんとしては。仕事が。ちょっとでも色々な家庭があるので、うん。こう、難しいんじゃないかなって思いますね。今、日本だとあの、だいぶね、あの、お父さんも早く帰ってこれるようになってますけど、ほとんどのお父さんは帰ってくるのが7時、8時とか。ですから。なかなか、その、夕方のオープンスクールも、結局、お母さんが1人で、もし下の子とかいたら、下の子を家に置いていかなきゃいけないっていう、そんな状況になってしまいそうですね。

なつみ先生：そうですね。子育て盛りの時は一番忙しいから親も30、40代で遅くまでね、仕事ありますもんね。私の父今60代ですけど、今でやっと5時上がり。家に5時半にはいるみたいな。

じゅんこ先生：そっかそっか。

Episode 6

のりえ先生：はい。では、香港とかどうですか？あの、労働環境っていうかみんな。

じゅんこ先生：香港は、あの。ドメスティックヘルパーがいるから。

のりえ先生：ああ、そうか。

じゅんこ先生：うん。だから働いてるの、お母さんもお父さんもどっちも働いていて、で、子供たちはそのフィリピン人とかインドネシア人のメイドが面倒見ている。

なつみ先生：ああ、へええ。そうなんだ。

じゅんこ先生：うん。ご飯も全部作ってくれるから。そうそうそう。そう。お母さん何もしくなくていい。

のりえ先生：うん、うん、うん。

じゅんこ先生：朝起きたら、もうそのまま、すぐ仕事に行く？子供のお迎えとかは全部そのヘルパーがするから。だから女性の負担みたいなのすごい少ないよね、こっちは。なんかその分、女の人も同等に、あの、出世のチャンスもあるし出張もあるし。同じですね。

なつみ先生：結構なんかそのヘルパー、私のあの、教えてる学習者さんでもインド、インドネシアじゃなくてシンガポールか？ヘルパーさんが家にいるんですよ。

じゅんこ先生：でしょ？

なつみ先生：一緒に住み込みで、もう、家族に、

じゅんこ先生：そうです。

なつみ先生：すごいなと思います。なんか結構日本の文化的に、なんかよそ者を家に入れないみたいな。あるじゃないですか。

じゅんこ先生：あと、あの、年を、年いって体が動か、動かなくなった時も、ま、ヘルパーさんがいたら、あの、ま、なんつうの？日本だったらさ、なんつうの？デイサービスとか、なんかあるじゃないですか？

なつみ先生：うん。訪問介護とかね。

じゅんこ先生：訪問介護とか、そういうのも、その。インドネシア人とかフィリピン人のヘルパーがいるから。あの、その人たちが、こうちょっと、ある、歩け、歩くのが遅くなった老人と一緒に散歩してたりとか。車椅子でとか出かけたりとか、そうしてる。

のりえ先生：えええ。良いですね、私香港に行きたいです。

じゅんこ先生：でもね、家賃も家の値段も、あの、買うのも高いので。

じゅんこ先生：結局すっごくお金持ちの家だったらまた違うけど、一般の中流家庭だったら奥さんも旦那さんも働いて、初めてローンが払えるみたいな感じかな。

なつみ先生：ふうん。

のりえ先生：なるほど。

のりえ先生：で、韓国はどうか？ですか、そのヘルパーとか、あの、家政婦さんの制度はどうですか？

なつみ先生：いや、家政婦って聞くと、やっぱりもう本当に、上流階級みたいな、もうかなり裕福じゃないと、多分そういう概念はないと思いますね。共働き。でも韓国あのデリバリーがすっごく充実してるので、もう本当に共働きで忙しい家庭は、もう夜作らないで、あの。ペダルって言って、デリバリー頼んで、もう配達して、もう注文すれば結構すぐ来るんで。

じゅんこ先生：うん。香港もそうだよ。デリバリーすごいっぱいある。

なつみ先生：そうなので、もう。そもそも毎日作んなきゃいけないっていう概念も、今のこの世代はもうないと思いますね。料理とか。

じゅんこ先生：うん。デリバリーしなくても、ちょっとその近所のヌードル屋さんとか行って買って来る。

なつみ先生：そう、そう、そう、外食したり、そうですね。

のりえ先生：へええ。そうなんですね。私、住んでるところが田舎だからかもしれないですけど、そんな気軽に、ま、買おうと思えば買えるんですけど、ちょっとドライブしなきゃいけないかったりとか、あと、やっぱり高くつくっていうのもあるし、デリバリーも頼むと結構嵩むじゃないですか。

じゅんこ先生：そう。そうですね。そうですね。

のりえ先生：うん。そう考えると、作るっていう、ことしか選択肢がない。

じゅんこ先生：そうね、田舎だとそうですね。

なつみ先生：日本住んでた時は、そんな外食イコール特別な日みたいな。外食に行く概念がそもそも違う。こっちと日本は。

のりえ先生：へええ。

のりえ先生：デリバリー安いですか？韓国は。

なつみ先生：そんなに安くもないですよ。デリバリーの、その配達料が最近上がって。

じゅんこ先生：そう、そうそう、香港も高いですよ。

なつみ先生：うん。そう、なので全然むしろ行った方が安いですし、うん。

なつみ先生：なんですけど、みんな家で食べたがる。人はデリバリーしてますね。

のりえ先生：へええ。

なつみ先生：そう。なんなら、独身貴族の人たちの方がデリバリーしてますけどね、家族よりは。

のりえ先生：ああ、その辺の、そのお金の感覚とかもちよっと違うんですかね？もったいないとか、作った方が安いしとか、そういうこと思わないんですかね？

なつみ先生：そうですね。なんか、そう、割と韓国人は日本人と比べたら、もう激しく遊んで激しく、一生懸命仕事して。プレイハーズワークハードプレイハードって感じです。

なつみ先生：うん。

じゅんこ先生：そうそう、そうそう。香港もそうだね。

なつみ先生：ね、なんか、貯金っていう人も、まあ、いますけど。そこまでじゃないかもしれない。なんだろう？なんでだろう？

のりえ先生：へええ。なんだろう。なに、何が違うんでしょうね。

なつみ先生：だからと言って、年金システムがしっかりしてるのかじゃないんですよ、全然。

のりえ先生：へええ。

じゅんこ先生：香港はうーん、まあ、年金はあるけど、うん、しっかりはしてないかもしれないな。

なつみ先生：うん。

のりえ先生：へええ。

なつみ先生：なんですけど、お金に対するそのね、価値観がなんか。

じゅんこ先生：うん。でも、お金、香港の人はお金大好きだから、みんな投資とかもしてるし。だからちょっと日本人とは違うかな？

のりえ先生：へええ。

じゅんこ先生：止まってる？

なつみ先生：止まった？

じゅんこ先生：ちょっと私そろそろ次の授業があるから。

のりえ先生：あ、そうですね。あ、だいぶ1時間話しましたね。あっというまでしたね。

じゅんこ先生：そうね。うん。

なつみ先生：あっというまでした。

じゅんこ先生：ね、ありがとうございました。